

「場合」の文末用法―「～場合ではない」をめぐる

早稲田大学文学研究科 ^{リニイ} 李二維

1. はじめに

従来の研究では「場合」「状況を表す形式」として位置付けられている。管見の限り、「場合」が条件文の周辺形式としての意味用法をめぐる解明、「トキ」との言い換えの可能性及び「場合」の接続辞化のプロセスへの解明等が主流となっている。こうした中で、「場合」の用法のうち特定の用法として片づけられ、先行研究でほとんど触れていない、例文 (1) いまはのんきに眠っている場合ではない。(2) あなたは人の心配なんかしている場合か。のような「場合」の文末用法にはいくつか疑問を持っている。その一、形態的特徴即ち「～場合ではない」のように否定形式或は修辭疑問の「場合か」の否定含意形式を取りやすいのは何を意味しているのか、また前接する成分がなぜ動詞テイル形が圧倒的に多いのか；その二、「場合ではない」による話し手評価含意は何に由来するのか；その三、「場合ではない」の位置づけはどう考えるか。

本稿で注目する「場合」の文末用法「～場合ではない」について基本的に文型辞書で「場合」の記述の下位項目として「～場合ではない」を慣用表現として扱われ、「現在の状態や相手が行っている行動が不適当であることを述べ、現在が緊急事態であることを聞き手に忠告する時に使う」と簡略的な解釈も見られる¹が、詳細な記述分析が不十分のように見える。本稿ではコーパスを利用し、こういう「～場合ではない」の使用実態、意味特徴の釈明及びその用法をめぐる上記の疑問への答えを探してみたい。

2. 形態からみた「場合」の文末用法

本稿では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を利用し、短単位検索で「前方共起条件キーから一語、語彙素『場合』、キーの条件を指定しない」という検索条件でヒットした結果からノイズと思われるもの²を取除き、以下表1のように「～場合ではない」の使用状況³を統計した結果が得られた。

表1 BCCWJ「～場合ではない」の使用状況

前接成分	出現形態	出現数及び割合		
動詞	ている	328	329 95%	348
	ているような	1		
	する	12	3%	
連体詞	そんな	7	2%	

表1から「～場合ではない」に前接するのは基本的に動詞テイル形であり、また連体詞の場合は「そんな」のようなマイナス評価の含意を有するものが殆どであることが明らかになった。また文末用法の「場合」の直後の形式、場合の文末形式として「～場合ではない」は327例、「～場合か、～場合なの」の修辭疑問の形で否定を表す形が25例で、否定を表す

¹ 『日本語教師と学習者のための文型辞典』くろしお出版1998年

² 実質名詞としての「場合だ」「場合ではない」等の用法

³ 「場合じゃない」、「場合か」、「場合ですか」等の形式を含めて

ものが圧倒的に多い。このように、「場合」の文末用法の形態的特徴から「～場合ではない」の意味を以下のように考えられよう。

3. 「場合」の文末用法「～テイル場合ではない」の意味特徴

3.1 現実の焦点化

表1からわかるように「場合」の文末用法は「～テイル場合ではない」の形が定着し、例文

(3) よして下さい。今はそんな悪ふざけをしている場合ではありません。

(4) アレクシードはちょっと息をついて、心を落ち着けようと努力した。そう、今は動揺している場合ではない。

のように「今は」等「今現在」の意味形式の明記或は後文脈によって「現在進行中の状況」を表すものが共起しやすい。BCCWJから「～場合ではない」の使用状況をみると言うまでもないが「テイル部」は発話時に成立している現実状況、話し手或いは聞き手などの言語行為や具体的な動作、行為を表す動詞が多く現れ、現実状況の内容に対して集中的描写を行っている。つまり「場合」の内容の具現化に焦点を当てるため、成立している現実が目の前に進行している現場にズームインし、臨場感を感じさせるものが多いのである。一方、「今現在進行中の状況」ではなく、過去或は近未来の場合でも「～テイル場合ではない」の使用も可能である。例えば「今はのんびりお風呂に入っている場合ではない」のように発話時点の「今」に「お風呂に入る」という事態が眼前に成立した現実である場合、或は発話時点に未実現事態であるが想定によって近未来で成立する現実を表す場合が考えられる。また、例

(5) いまにも気を失いそうだ。だがそれはよくない。その前にすることがある。気を失っている場合ではない。

のように前文脈「いまにも気を失いそうだ」から「「気を失う」は未然事態であることがわかる。つまり想定によって成立する現実の事態さえ存在すれば「動詞テイル」部によって現在、過去、近未来の状況のいずれも取り上げることが可能である。

「～テイル場合ではない」は否定される状況と他状況が想定できる中、「今は」を主語に立て、「場合」の直前に動詞「テイル形」をとることによって「発話時の今現在」の特定状況下にある現在進行中の既存現実或は想定が成立している現実の場面を取立て、それに集中して特定化しているメカニズムが働いているように見える。意味的に類似表現と思われる「べきではない」と比較してみると、作例

(6) そんなことを言っているべきではない

(6') そんなことを言うべきではない

のように「べきではない」に前接する形式は「スル形」と「テイル形」の両方が可能であるのに対して、「～場合ではない」は表1からもわかるように「スル形」が極めて少なくⁱ、例

(7) そんなことを言っている場合ではない

(7') そんなことを言う場合ではない △

のように「テイル形」の方が自然で、スル形への置き換えが難しいのが普通である。「べきではない」は「べきだ」の否定形式として、倫理や道徳にその妥当性の基準を置いているのが普通であるため一般状況及び特定の現実事

態が妥当ではないという価値判断として機能でき、必ずしも「成立している現実」にフォーカスして評価するとは限らない。これに対して「～テイル場合ではない」は発話時のその場に限定された一時的な現実或いは想定で成立する現実焦点を当てながら「テイル場合」に対して評価を行っているという意味しか有しない。また発話時現場の現実或いは想定現実の状況という制限が解消すれば「テイル部」によって表す事態の不適切であることも解消する可能性があるため、「～テイル場合ではない」の「不適切」は限定される一時的なものだと考えられよう。それに加えて、「～スル場合ではない」形式が基本的に不在であることも「～テイル場合ではない」の表す「現実の焦点化」への裏付けになると言えるのではないだろうか。

3.2 事態へのマイナス評価

3.2.1 形態からみたマイナス評価

「～テイル場合ではない」は現実注目して焦点化している同時に、例

(8) 今はのんびりお風呂に入っている場合ではない。

(9) あなたは人の心配なんかしている場合か。

のように否定形或は修辞疑問の「場合か」のような否定含意の形式を取りやすい。このように否定の形式によって「～テイル場合ではない」は一体何をどのように否定しているのだろうか。具体的に見ると、例(8)は「のんびりお風呂に入っていることは不適切である。が、現時点で実際ののんびりお風呂に入っている」或は「これからお風呂に入ろうと思う主体の人物がいるが、お風呂に入るという行動自体はその人物が今置かれている状況からみると決して取るべく好ましい行動ではなく、つまり不適切行動であると否定的判断しマイナス評価を行っている」ことを意味する。例(9)は反語の否定含意形式で否定することによって「理想と相違する現実の状況がこのままあり続けるべきではない或は好ましくないことである」を意味する。また例

(10) そんなら俺だって同じだぜ。後のことなんて考えてる場合か。

(11) 聞こえたっていいじゃないか。そんなこと気にしてる場合かね。

のように「なんて」「なんか」「そんな」等のマイナス評価含意表現の出現も否定を強化させる効果が考えられる。一方、

(12) ばかねえ、泣いている場合ではないでしょうに

(13) 私ったら、こんなことを考えている場合じゃないのに

のように「でしょうに」、「のに」のような表現が後接して「テイル場合ではない」の評価含意と相乗効果を果たし否定の強化になる場合も見られる。更に否定形でマイナス評価を表す形のみ存在し、肯定形でプラス評価を表す「～テイル場合だ」の不在も事態へのマイナス評価に焦点を当てるという意味特徴の裏付けとなると言える。しかも、例

(14) 本当は、こんなことをしている場合ではない。行かなければならぬ場所がある。

のように現実が期待や理想から外れて取るべきではなく好ましくない行動であると判断する段階にと止まらず、その判断に加えて「本当は」等によって非理想の現実と対称的にある「理想の世界の存在」をほのめかす。つまり「現実とは違う期待していた理想状況なら」という仮説を表す成分⁴—価値基

⁴ 森山 (1997)

準を相対的なものとして設定しなおせるとされる副詞であるが、それが「～テイル場合ではない」に出現することから、話し手にとって「成立している現実事態と相違する理想事態」がパラレルに存在することを意味すると言えよう。後文脈例のように理想自体として、取るべく好ましい行動等を明示することにつながるのである。

(15) パニックに陥っている(場合)ではない。落ち着け。

(16) そんな悠長なことを言っている(場合)ではありません。すぐに警察に相談をしてください。

このように、「～テイル場合ではない」は非理想現実に対する否定に合わせて理想事態選択として聞き手に対する不適切な現実事態の中止要求や忠告、理想事態選択への転換の助言等が自然に現れてくるのである。

3.2.2 「～テイル場合ではない」の現実事態と理想事態の並立

そもそも「場合」はその実質名詞の意味から「複数の状況の存在」が考えられるため、先行研究の周縁的条件表現として使われるのである。こうした意味特徴は「～テイル場合ではない」においても継承されるように思われる。即ち「場合」は普通名詞として複数状況の含意を有することから、「～テイル場合ではない」の現実における「～テイル場合」とパラレルに存在する「その他の場合」も考えられるのである。実際、「～テイル場合ではない」にある「場合」は想定できる全部の事態において「非理想的で、不適切な現実事態である」と話し手に好ましくなく認識されているものである。これは「～テイル場合ではない」には「期待される合理的な状況或は事態の理想状態」と「その理想に違反した現実の状況」がパラレルに並立していることを意味する。そうした中で現実として成立している事態が理想の事態に大いに違反した不適切な事態とし、それに対して否定的評価しているのであると述べてきた。森山(1997)の主張を借りると、例

(17) 20歳になっている場合ではない ×

(18) こんな忙しい時に怪我をしている場合ではないのに ○

のように現実事態以外の他事態がそもそも存在しない或は想定不可能の場合、「～テイル場合ではない」の含意する現実事態と理想事態の分離或は並立とは矛盾を生じるため、用いられないのである。よって、現実事態と範列関係にある他事態、ひいては理想事態の存在が可能かどうかは「～テイル場合ではない」の本質的な特徴と考える。

4. 「～場合ではない」の評価性

4.1 「べきではない」との比較から見る「～場合ではない」の評価性

4.1.1 「～場合ではない」の状況性及び違反の価値判断

今まで述べてきたように、「～テイル場合ではない」は発話時特定の状況において、進行中或は想定で成立している現実事態が好ましくない、理想的でないという価値判断を行っているのである。発話時特定の状況という制限が解消すれば「テイル部」事態が不適切であることも解消する可能性が十分に考えられ、いわゆる「～テイル場合ではない」の事態の「不適切」は限定される一時的なものだと言える。その上、事態が理想的でなく不適切であるという価値判断は発話時状況に依存するだけでなく、発話者の個人的な基準に左右される面も見られる。例

(19) 金次郎も三十一歳になっていた。他人の恋の世話を焼いている場合ではない

(20) だが、それをアナリストが言っては身も蓋もない。職務放棄もいいところだ。とにかく、人の心配をしている場合ではない。

のように、「他人の恋の世話を焼く」「人の心配をする」を非理想的事態として否定的に評価するという意味表示の前提として、それぞれ発話時特定の状況すなわち「金次郎も三十一歳になっていた」「だが、それをアナリストが言っては身も蓋もない。職務放棄もいいところだ」の状況説明が見られる。発話時特定の状況からすれば、いずれも現実事態より遥かに合理的な事態選択が存在するにもかかわらず、動作主が発話時状況に見合わない、好ましくなく非合理的非理想的事態選択をしていることを表しているのである。

こういう「～テイル場合ではない」に対して、「ベキではない」は倫理や道徳にその妥当性の基準を置いているのが普通であるため一般状況及び特定の現実事態が妥当ではないという価値判断として機能するのが普通である。その基準は社会通念が多く、話し手などの個人に左右されにくいと思われる。例(19)(20)いずれも「ベキではない」に言い換えると、

(19´) 他人の恋の世話を焼いているベキではない？

(20´) とにかく、人の心配をしているベキではない？

のように不自然になるだけではなく、「場合ではない」に含意される話し手の現実事態への不賛成、否定的態度表示の度合いも薄れてしまうのである。このように、「～場合ではない」は現実事態が理想事態に違反したという違反への価値判断であるが、「ベキではない」はそういった違反の前提の含意がないと思われる。

4.1.2 「時ではない」と「～場合ではない」

また、「～場合ではない」に類似した表現として「時ではない」も挙げられるが、両者は主に以下の点で相違を見せていると考える。

まず「～場合ではない」は「私は人の心配をしている場合ではない」「今はゲームなんかしている場合か」などのように、人や状況を主語として述べられる。それに対して「時ではない」は主語と述語の「時」とはカテゴリが一致しないため、「私は人の心配をしている時ではない」のように言えないのである。もちろん例えば以下の作例ように

地震が起きた場合、

(21) こんなところで議論している時ではないよ

(22) こんなところで議論している場合ではないよ

両方とも成り立つが、「こんなところで議論している時ではないよ」はまだ「時間として不適切である」の意味合いが残っている。それに対して、「場合ではない」の方が発話時特定状況「地震」に対する動作主の選択する不適切で非理想的事態「議論」への否定的評価の度合いが明らかに高いと言える。

更に中国語や韓国語では日本語の「～場合ではない」に完全一致した表現がなく、「場合ではない」ではなく、「～時ではない」で表現するのである。「時ではない」と「～場合ではない」を使い分けているのが日本語特有のようであり、両者の違いの示しでもあろう。

4.2 「～場合ではない」の位置付け

以上述べてきたように、「～場合ではない」は話し手の非理想事態に対する評価を意味すると言える。高梨(2010)によると評価のモダリティ形式は

意味によって以下のように、事態の「肯定評価、妥当、必要、不可避」という評価を表す「必要妥当系」、事態が必要でないという評価を表す「不必要系」、事態が許容されるという評価を表す「許容系」、事態が許容されないという評価を表す「非許容系」に分類できる。この分類に従えば、「テイル場合ではない」は「非許容系」に属しているとしか言えないだろう。

一方、高梨（2010）が評価のモダリティ形式が表す意味として「純粋な主観的態度である話し手の発話時の評価と主観から外れる客観的必要性・許容性と分類しその区別の必要性を主張している。これによると、「～テイル場合ではない」は事態の評価の形式として、まず言えるのは発話者の否定的価値判断という態度表示の前面化のように見える。同時に、不適切現実事態の「～テイル場合」の客観的許容性においては広義に解釈しようとしたら非許容性であろうが、今まで述べてきたように「非理想事態」であり、「非許容性」とは微妙にニュアンスが異なるように見える。筆者の考えでは、「～テイル場合ではない」の「～テイル場合」は許容されない事態とまでは言えなく、非理想事態という意味からむしろ事態の妥当性により近いと考える。本稿では「～場合ではない」の形態的意味的特徴に対する分析から、一種の評価モダリティ形式として見たい立場にある。

用例出典 現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ

参考文献 （一部）

グループジャマシイ編著 日本語教師と学習者のための文型辞典

くろしお出版 1998 年 2 月

高梨信乃 評価のモダリティ 現ちあ日本語における記述的研究 2010. 6

くろしお出版

田中 寛 時の“特化”を表す名詞述語文—<～時だ>、<～昨今だ>などを例に 日本語/日本語教育研究 [3] 2012. 日本語/日本語教育研究会

森山卓郎「日本語における事態選択形式—「義務」「必要」「許可」などのムード形式の意味構造」国語学 188 集 1997. 3. 31

森田良行 時間を表す基礎日本語辞典 角川ソフィア文庫

ⁱ 「～する場合ではない」の例文は主に以下のように動詞自体がテイル形がないもの、慣用表現、ものがある

LBq9_00050 しかし、人も我もそんな余裕のある(場合)ではなかった。

OB1X_00091 日ごろ御台所のやきもちに悩まされている頼朝が、何ともうらやましそうな顔をしたのを見て、にやりとしかけたが、一おっと、笑う(場合)ではない。

LBi9_00151 そんな者はおらぬ。一みな、炸裂玉にやられて四散したワ。#その方には従卒が二人もおるであろう。欲を吐かす(場合)か

LBb9_00098 おいおい、ホームズ、キャディの選択は偶然のツキじゃないと、言うつもりかい」「ツキに頼る(場合)じゃなかった。あの二人、アーチャーとウィリーは昨年の秋、ブラックヒースの試合でキャディをやってくれたんだ。